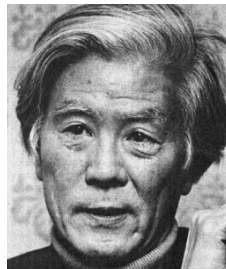


この企画事業は、2013年の森田慶一『西洋建築史概説』（1962）刊行50周年を記念した加藤邦男氏の講演会から始まりました。これまでの全5回の中で森田慶一、増田友也、渡部貞清の思索を取り上げ、京都大学を中心とした建築論の射程をめぐって議論を積み重ねてきました。それを踏まえて今後は、「学派 school」として再度捉え直した「建築論の京都学派の課題と展望」というテーマのもと、さらなる活発な議論を進めたいと考えています。

そこで今回は、増田友也から玉腰芳夫への思索の歩みに注目し、日本住宅の空間現象や住まうこと、場所・風景なるものへと深められた独特な建築論の展開を掘り起し、今なお生き続ける知の働きかけに呼応しながら、新たな可能性を模索したい。



増田友也「家と庭の風景」
(1964)

日本建築学会 2018 建築文化週間
第6回 福井の地から建築史・建築論を考える

「増田友也から玉腰芳夫への思索を超えて —建築論の京都学派の課題と展望—」

日時 2018年10月28日（日）13:30～17:30

会場 アオッサ・6階 研修室（JR福井駅前）

定員 30名（参加費無料、当日先着順）



玉腰芳夫「古代日本のすまい」
(1980)



プログラム

発表者

西村 謙司（日本文理大学）

増田友也「家と庭の風景」ということ

川本 豊（福井工業大学）

玉腰芳夫「古代日本のすまい」について

参加者によるディスカッション

主催：日本建築学会北陸支部福井支所

問合先 福井工業大学 建築土木工学科 市川秀和

協力：建築論研究会

Tel：0776-29-2590（直通）E-mail：hidei@fukui-ut.ac.jp